

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(石油:<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>)

マイライブラリー:0426

(注)本稿は2017年11月17日から30日まで7回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

五大国際石油企業2017年7-9月期決算速報(付 JXTG グループ業績)

2017.12.4

前田 高行

目次	頁
1. 五社の7-9月期業績比較	2
2. 2016年第3四半期以降の四半期別業績の推移	6

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の7-9月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合及び上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

なお今年4月に発足したJXTGホールディングスの7-9月期決算が同時に発表されている。同社は旧日本石油と三菱石油の合併に始まり、その後共同石油・日本鉱業グループさらには東燃グループとの合併を経て成立した日本最大の石油企業グループである。

同社は石油・天然ガスの開発・生産(上流部門)から石油精製・販売(下流部門)を包含する総合エネルギー企業である。本稿で比較する数値が示すように、五大国際石油企業に比べると売上高はChevronをしのぎTotalと肩を並べ、また利益はBPに次ぐレベルである。参考のため比較可能な項目について概要を示すこととする。(円とドルの換算レートは1ドル=111円とした)

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<http://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-release-third-quarter-2017-financial-results>

Shell:

<http://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2017/third-quarter-2017-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/media/press-releases/third-quarter-2017-results.html>

Total:

<https://www.total.com/en/media/news/press-releases/third-quarter-%20and-first-nine-months-2017-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-third-quarter-net-income-of-2-billion>

JXTG ホールディングス:

<http://www.hd.jxtg-group.co.jp/ir/library/statement/2017/>

(注)JXTG ホールディングスは今年4月発足のため前年度あるいはそれ以前については本稿では業績比較の対象からはずした(なお同社決算資料では前年同期比として JX ホールディングスと東燃ゼーネラルの合計値が示されている)。また同社7-9月期決算資料では設備投資額、原油生産量、ガス生産量、同合計生産量の四半期数値が判別できないため、これらの項目については五大石油企業との比較は行っていない。

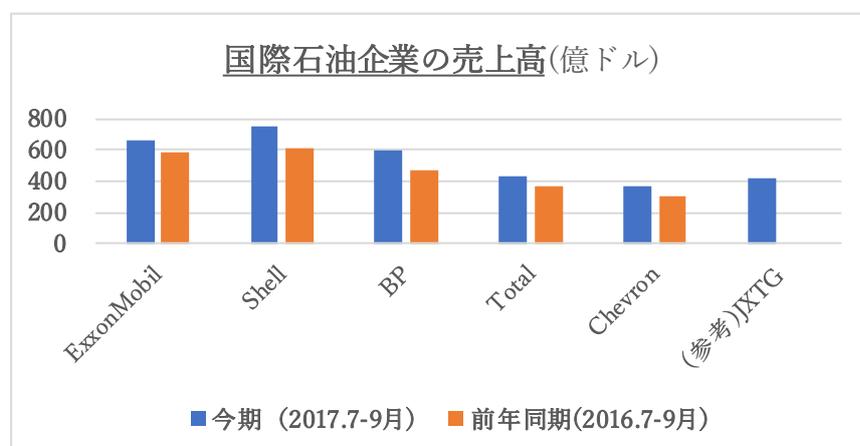
* 五社の2016年通期及び2009年から2016年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0401OilMajor2016.pdf>

1. 五社の7-9月期業績比較(末尾表:1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高、総合利益及びガス生産量では Shell がトップである。しかし上流部門利益、下流部門利益、設備投資、原油生産量及び原油・天然ガス合計生産量の各部門では ExxonMobil がトップであり、売上高利益率では Total が最も高い。なお今期の五大石油企業は全社黒字である。

(1) 売上高



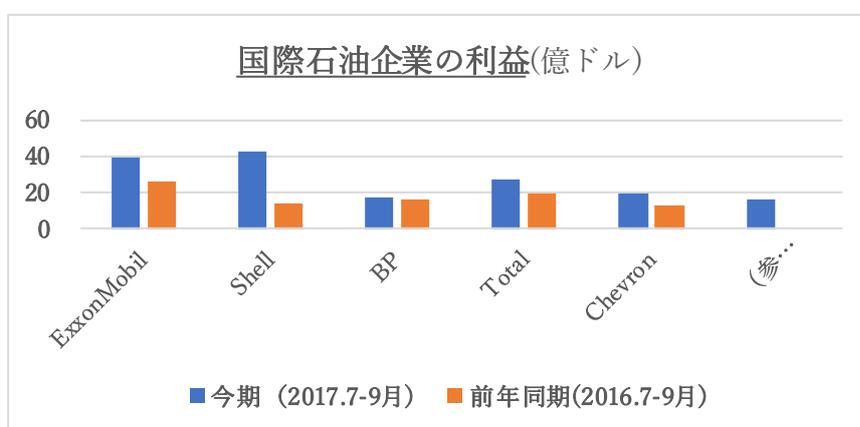
2017年7-9月の売上高は5社ともに前年同期より増加した。各社の売上高および対前年同期の増加幅は、ExxonMobil が662億ドル(13%増)、Shell 758億ドル(23%増)、BP 600億ドル(28%増)、Total 430億ドル(15%

増)、Chevron 362億ドル(20%増)であった。

各社の増収率はいずれも原油・天然ガス生産量の増加率(別項参照)を上回っている。これは今期の原油ガス販売単価が昨年の同期よりも高くなったことによる。因みに販売単価を Shell の決算資料で見ると、昨年7-9月期はバレル当たり平均40.43ドルであったものが、今期は47.06ドルと16%アップしている。原油価格の上昇がそのまま各社の売上高の増加に反映されたと言えよう。

JXTG の2017年7-9月期の売上高は4兆6,845億円(422億ドル)であった。これは国際石油企業5社で売り上げが最も大きい Shell(758億ドル)の6割であり、5社の中で売り上げが最も少ない Chevron (362億ドル)を上回っている。

(2) 総合利益

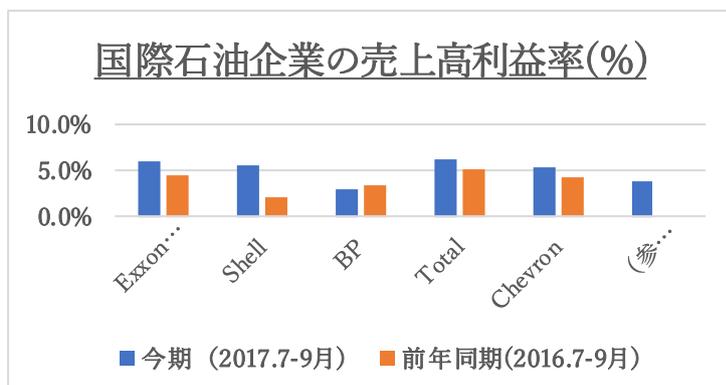


前年同期に引き続き今期も5社すべてで利益を計上している。利益額が5社の中で最も大きいのは Shell の43億ドルであり前年同期(14億ドル)の3倍である。Shell に次いで利益が多いのは ExxonMobil の40億ドルであるが、前年同期

比で50%増である。残る3社の利益は Total が27億ドルで Shell あるいは ExxonMobil の7割弱であり、Chevron(20億ドル)及びBP(18億ドル)は上位2社の半分以下である。なお3社を前年同期と比較すると Chevron は50%増、Total も40%増であるが、BP のみは10%増にとどまっており、4社に対して見劣りがする。

なお JXTG の四半期利益は1,818億円(16億ドル)であり国際石油5社のいずれよりも低い水準である。

(3) 売上高利益率

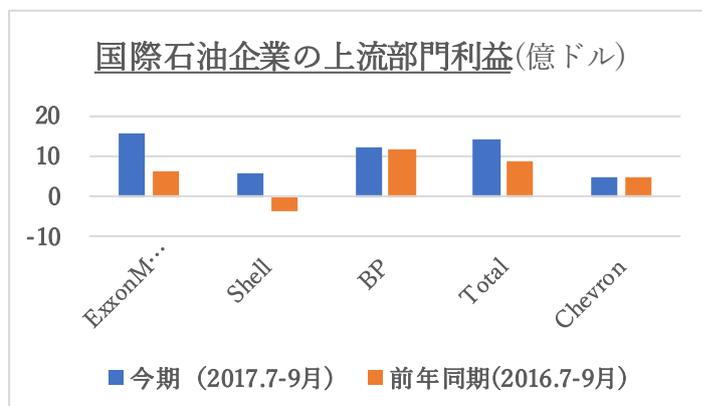


売上高利益率は Total が6.3%と最も高く、ExxonMobil 6.0%、Shell 5.7%、Chevron 5.4%と続き、最も低いのは BP の2.9%である。前年同期は Chevron が5.2%であり、その他の4社は ExxonMobil の4.5%はじめいずれも5%以下であった。

JXTG の売上高利益率は前期の0.9%を大幅に上回り3.9%であった。これは BP よりは高いが、Total、ExxonMobil、Shell、Chevron に比べるとかなりの格差があると言えよう。

(4)上流部門と下流部門の利益

(a)上流部門



利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、まず上流部門では前年同期に比べるとShellがマイナスからプラスに転じたのを始め、ExxonMobil及びTotalも利益が大幅に伸びている。この1年の間に原油価格が改善したこと、及び各社が上流部門の投資ポ

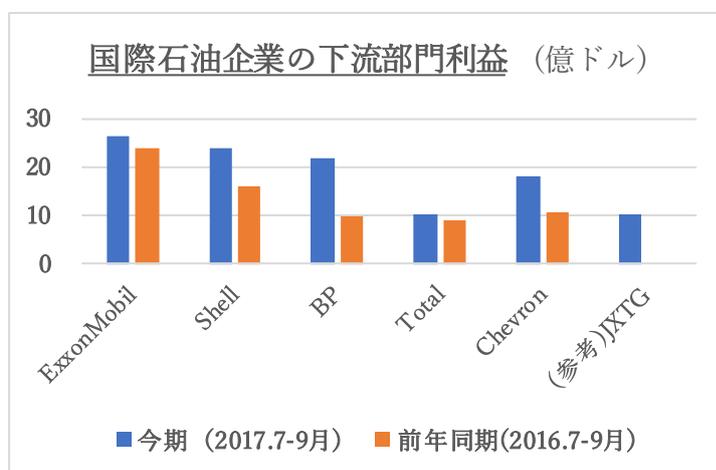
トフォリオを見直したことにより各社とも上流部門の損益が上向き傾向にあると言えよう。

5社の中で今期の上流部門の利益が最も多かったのは ExxonMobil の16億ドル(前年同期比2.5倍)でこれに次ぐのが Total 14億ドル(同64%増)、BP12億ドル(同4%増)である。Shell 及び Chevron は5億ドル前後で並んでいる。Shell は前年同期の4億ドルの赤字から6億ドルの黒字に転換している。

JXTG の上流部門の利益は48億円であり、ドルに換算すると43百万ドルとなる。これは五大国際石油企業の1割以下の水準である。因みに同社の4-9月の石油・天然ガス合計販売量は11.3万 B/D(石油5万 B/D、石油換算天然ガス6.3万 B/D)であり、後述する国際石油企業の生産量と雲泥の差がある。これが利益面でも大きな格差となっている。

(注)JXTG の決算説明資料では7-9月の四半期の販売量は記載されていない。

(b)下流部門



下流部門は今期も好調で全社が利益を計上している。利益額が最も大きいのは ExxonMobil の26億ドルであり、次いで Shell が24億ドル、BP も22億ドルの黒字を計上、Chevron は18億ドル、Total 10億ドルである。前年同期比ではBPが2.2倍、Chevron1.7倍、Shell1.5倍等各社とも下流部門は安定した収益源となっている。下流部門は原油価格の上昇が原料のコストアップとなり

上流部門とは正反対の効果をもたらすことになるが、製品価格への転嫁、製油所の効率化・集約化など企業努力の結果が各社の下流部門の業績に反映しているようである。

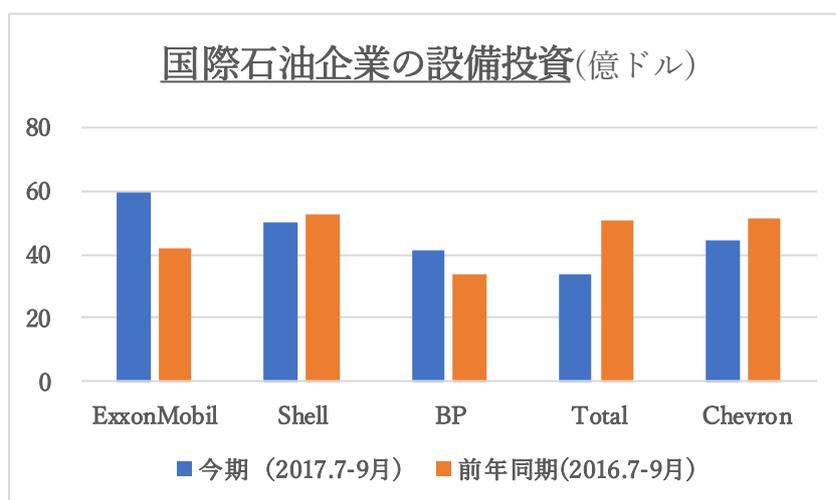
JXTG の下流部門の利益は1,132億円(10億ドル)であり、上流部門の利益(48億円、上記)に比べると同社が利益の大半を下流部門で捻出していることが解る。これを国際石油企業五社と比べると、JXTG は5社で最も低い Total と同じ水準であり、ExxonMobil あるいは Shell の2分の1以下である。これまで日本の石油産業は構造的な過剰設備と過当競争のため製品末端価格の利幅が小さく利益の出にくい体質であった。その対策として JXTG は合併により設備の集約化と販売の効率化を図り、その結果下流部門で安定した収益を確保できる体制を整えつつある。

なお冒頭(1-(2))の総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

(c)上流部門と下流部門の比較

各社の上流部門と下流部門の損益を比較すると、ExxonMobil、Shell、BP 及び Chevron の4社は下流部門が上流部門を上回り、Total のみ上流部門の利益が下流部門のそれを上回っている。かつて石油価格が高かった時代は国際石油企業は利益の大半を原油・天然ガスの生産(上流部門)で稼ぎ、精製、石油化学など(下流部門)の低収益を補うという収益構図であった。その後昨年前半までの約2年間は原油価格が大幅に下落したため収益構造が逆転、上流部門の利益が急減する一方、精製、石油化学部門は原料の原油・天然ガス価格が急落したため利益の出る体質に変化した。しかし、昨年後半以降は原油・天然ガス価格が持ち直しており、各社とも上流部門と下流部門の収益が変動しつつあり、それが今期の決算に表れたと言えよう。

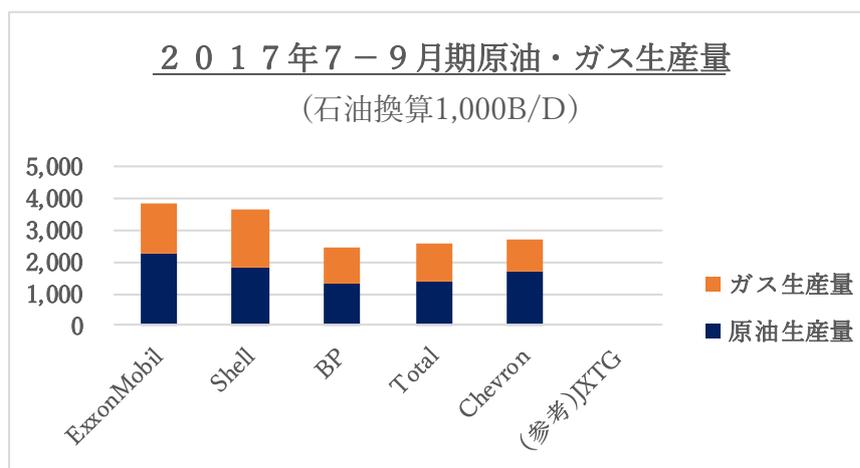
(5)設備投資



2017年7-9月期の各社の設備投資額はExxonMobil が60億ドルと最も多く、これに次ぐのがShell の50億ドルである。その他3社は、Chevron 45億ドル、BP 41億ドル、Total34億ドルと続いている。前年同期と比較するとExxonMobil とBP は増えているが、Shell、Total 及び

Chevron は減少している。ExxonMobil は前年同期の42億ドルから4割増加した一方、Total は51億ドルから45億ドルに減少している。石油価格が上昇し資金に余裕が出ているが、石油の需要そのものが伸びていないため、設備投資に対して慎重な企業が多いようである。

(6)原油・ガス生産量(末尾表 1-D-4-22 参照)



今年7-9月の原油生産量はExxonMobilが平均日産量228万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はいずれも200万B/D以下であり、Shellが185万B/D、Chevron 172万B/D、Totalは139万B/D、BPはExxonMobilの6割弱の1

34万B/Dで5社の中では最も少ない。ExxonMobilは世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較するとBPは18%増と5社の中では飛び抜けて増加しており、Totalは8%増、ExxonMobil及びChevronは3%増である。Shellは5社の中では唯一前年同期を下回っている。

天然ガスの生産量はShellが日産105億立方フィート(以下 cfd)と5社の中で唯一100億cfdを超えており、これに続くのがExxonMobil(96億cfd)である。これに対して他の3社はBP 65億cfd、Total 64億cfd、Chevron60億cfdと並んでおり、ShellあるいはExxonMobilの6割にとどまっている。前年同期に比べるとChevronが17%、BPが14%増加しており、Shell及びTotalは微増、ExxonMobilは5社の中で唯一前年同期をわずかに下回っている。

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量ではExxonMobilは388万B/Dでこれに次ぐのがShellの366万B/Dである。その他の3社はChevron272万B/D、Total258万B/D、BP246万B/DでありExxonMobilあるいはShellの7割前後である。石油と天然ガスの比率を見ると、5社はいずれも石油の比率が高いが、その中でもChevronは石油63%、天然ガス37%であり5社の中では石油の比率が最も高い。ExxonMobilは石油59%:天然ガス41%であり、BP及びTotalは共に石油54%:天然ガス46%である。Shellは5社の中では石油と天然ガスの比率が最も拮抗しており、石油51%、天然ガス49%である。

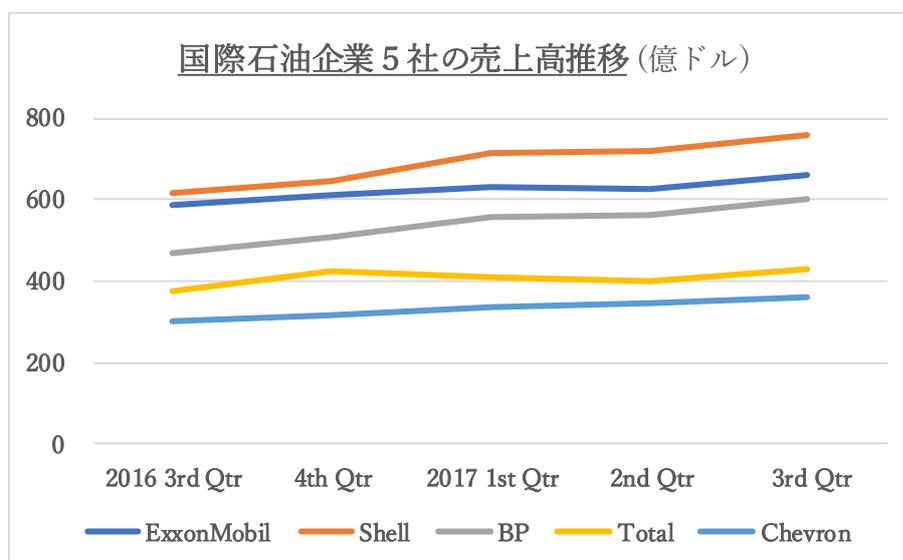
2. 2016年第3四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2016年7-9月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

(1) 売上高の推移

2016年第3四半期から2017年第3四半期に至る四半期ベースの売上高は昨年末までは原油価格の回復を受けて各社とも増収基調にあったが、今年に入ってからShell、BP及びChevronの売上げが順調に増加した一方、Total、Chevron及びExxonMobilは停滞し、二つのグループに分極

化した。但し第3四半期は全社とも売り上げが伸びている。

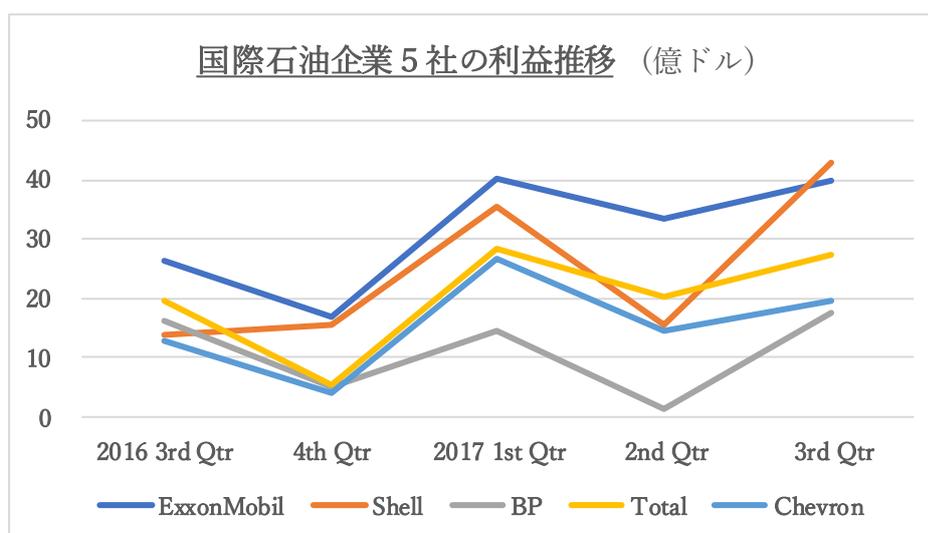


各社の推移はShellが619億ドル(2016 3rd Qtr)→648億ドル(4th Qtr)→718億ドル('17 1st Qtr)→721億ドル(2nd Qtr)→758億ドル(3rd Qtr)と5期連続で売り上げトップを続けている。これに次ぐのがExxonMobilでありその売上高は587

億ドル(2016 3rd Qtr)→610億ドル(4th Qtr)→633億ドル('17 1st Qtr)→629億ドル(2nd Qtr)→662億ドル(3rd Qtr)である。ExxonMobilは2016年第二四半期にそれまでの売上トップの座をShellに譲ったが、それ以降両社の格差は広がる傾向にあり、前期、今期と続けて90億ドル強の差がついている。

この間の四半期平均原油価格(1バレル当たり)は、Shellの決算資料で見ると40.43ドル(2016 3rd Qtr)→44.54ドル(4th Qtr)→48.36ドル(2017 1st Qtr)→45.62ドル(2nd Qtr)→47.06ドル(2017 3rd Qtr)であり、緩やかな回復基調が続いている。この価格の変動が各社の売上高の推移に反映していると言えよう。

(2)利益の推移



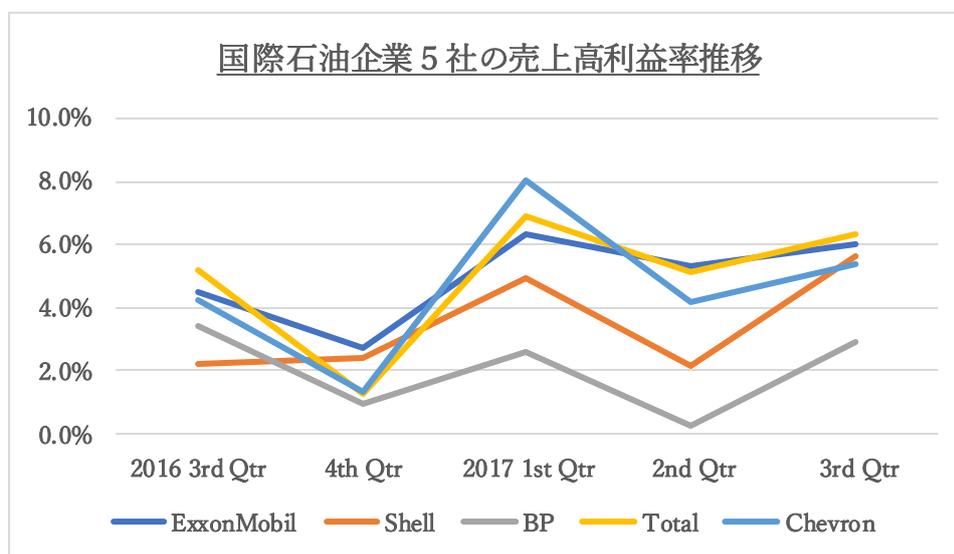
ると各社とも四半期ごとに増益と減益を繰り返しており今期は5社とも対前期比で増益となっている。なお昨年第2半期にBPとChevronが損失を計上しているが、過去一年間は各社とも利益を計上している。

5社の中で安定して高い利益を計上しているのはExxonMobilである。同社の利益の推移は27億

ドル→17億ドル→40億ドル→34億ドル→40億ドルであり、今期を除いては4期連続してトップである。Shell は2016年第3四半期の利益14億ドルで、それ以降は15億ドル→35億ドル→15億ドルと推移し、今期は過去1年で最高の43億ドルの利益を計上、ExxonMobil を抜いて5社のトップになっている。

Total は ExxonMobil と同じような浮き沈みを繰り返しており各期の利益額は20億ドル(2016 3rd Qtr)→5億ドル(4th Qtr)→28億ドル('17 1st Qtr)→20億ドル(2nd Qtr)→27億ドル(3rd Qtr)と推移している。Chevronは2016年第一四半期は5社で最も利益が少なく(13億ドル)、続く第四四半期はさらに低い4億ドルの利益にとどまった。その後同社の利益水準は20億ドル前後で安定している。BP は5社の中で最も低い利益水準にとどまっており、特に前期(第2四半期)の利益はわずか1億ドルであった。その後利益は回復し今期は過去5期で最も大きい18億ドルの利益を計上している。

(3) 売上高利益率の推移



5社とも過去5期を通じて利益率は大きな振幅を繰り返している。1年前の昨年第3四半期の5社の利益率は最も高い Total は5.2%、これに次ぐのが ExxonMobil 4.5%、Chevron 4.3%、

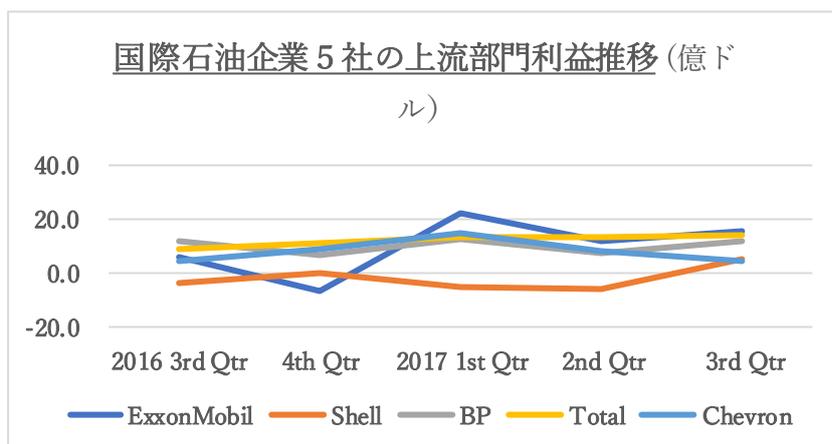
BP 3.4%で Shell が最も低い2.2%であった。続く第4四半期には Shell 以外の4社の利益率は低下し、トップの ExxonMobil が2.8%、最も低い BP が1.0%と各社の利益率に大きな差はなかった。しかし今年第1四半期には各社の利益率に大きな格差が生まれ、最高は Chevron の8.0%で、Total (6.9%)、ExxonMobil(6.3%)がこれに続き Shell は4.9%であり、利益率が最も低かったのは BP の2.6%であった。第2四半期は ExxonMobil が利益率5.3%で Chevron に替わってトップになったが各社間の格差は開いたままであった。今期は BP を除く4社の利益率は6%前後で大きな格差はなく、BP のみ2.9%と低水準にあえいでいる。

(4) 部門別利益の推移

(4-1) 上流部門

2016年第3四半期の各社の上流部門の利益は BP が12億ドルで最も多く、続いて Total 8.8億ドル、ExxonMobil 6.2億ドル、Chevron 4.5億ドルと続き、Shell のみは3.9億ドルの欠損であった。続く第4四半期は ExxonMobil のみが欠損で他の4社は利益を計上している。Shell は今年第1及び第2四半期は再び欠損を計上、昨年から今年にかけて同社の上流部門は不振を続け、今年第4

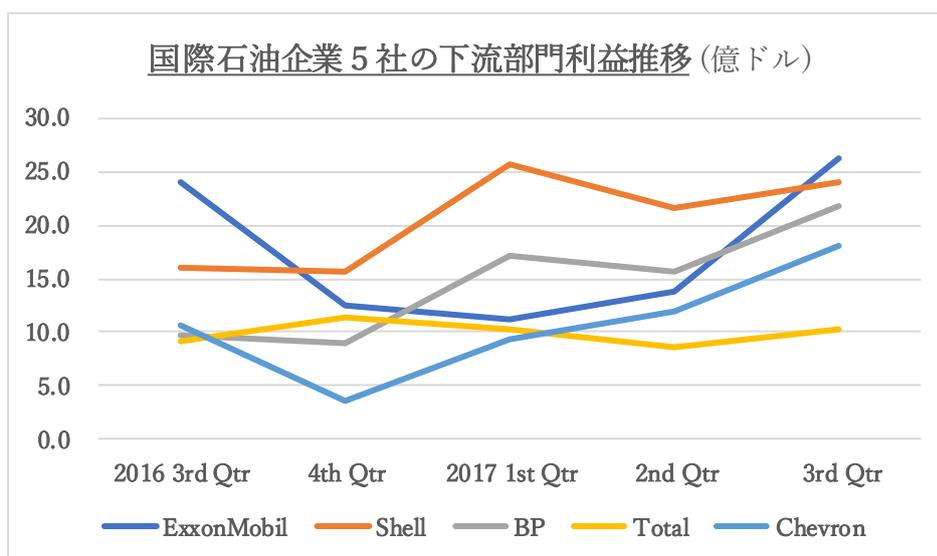
四半期になってようやく5.8億ドルの利益を出している。



一方 ExxonMobil は昨年第4四半期に6億ドルの欠損を出した後、今年1-3月期以降は23億ドル、4-6月に12億ドル、第3四半期16億ドルと連続して二桁の利益を計上している。BP と Chevron は昨年第3四半期以降5期連続で利益を出している。5社の中で

で上流部門が最も安定しているのは Total であり、5期連続で9~14億ドルの利益を計上している。

(4-2) 下流部門



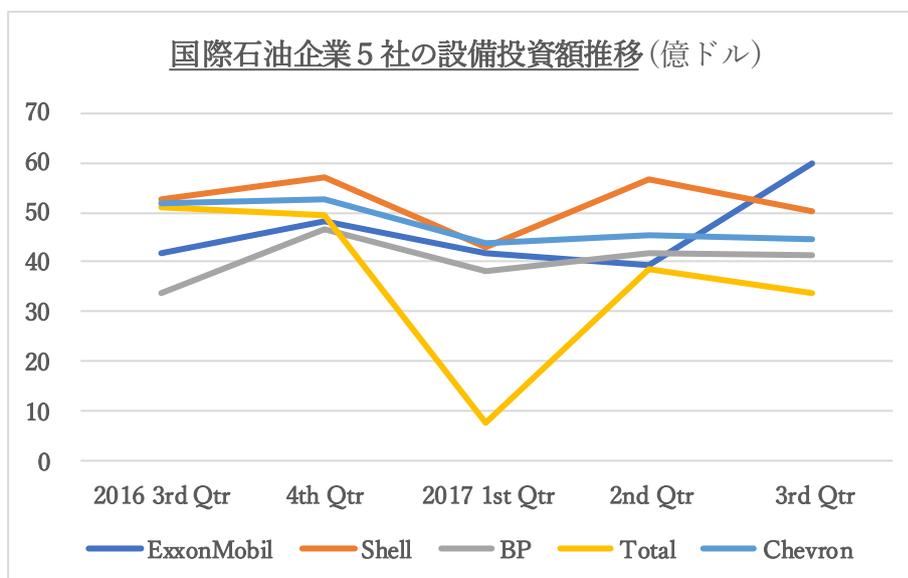
下流部門は過去1年間各社とも安定した利益を計上している。ExxonMobil の2016年第3四半期の利益は24億ドルであった、第4四半期以降も12億ドル→11億ドル→14億ドル→26億ドルと10億ドル以上の利益を

コンスタントに出している。

ExxonMobil に限らず他の4社も上流部門は5期連続で利益を出しており、Shell の場合は16億ドル(16年第3 Qtr)→16億ドル(第4 Qtr)→26億ドル(17年第1 Qtr)→22億ドル(第2 Qtr)→24億ドル(第3 Qtr)と20億ドル前後の安定した利益を計上している。

各社の下流部門の決算が堅調な理由は昨年以降原油価格が50ドル前後で比較的安定的に推移したことに加え、各社が精製装置の稼働率向上につとめ、また世界景気が底堅さを維持し石油製品の販売が堅調に推移したためであろう。

(5) 設備投資の推移



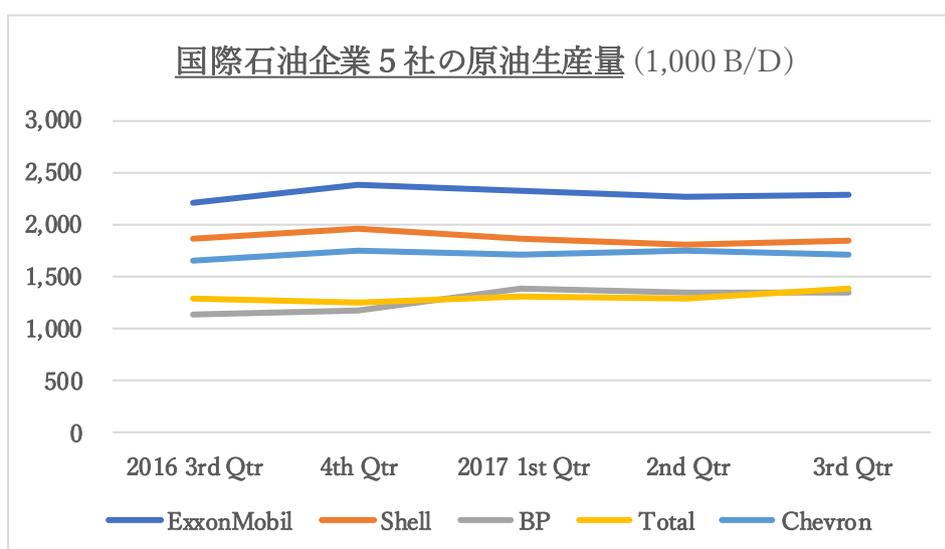
5社の四半期ベースの設備投資額は60億ドルを下回る低い水準が続いている。Shell は5社の中で設備投資が最も高い水準にあり、2016年第3四半期には53億ドルであった。2017年第1四半期には43億ドルにとどまったが、その前後4期は50億ドルを

超える設備投資を続けている。ExxonMobil は2016年第3四半期から今年第2四半期まで40億ドル台の設備投資であり、今期は5社中で最も大きく、また過去1年で最高の60億ドルの投資を行っている。

Total の昨年第3四半期の設備投資は Shell あるいは Chevron と並ぶ51億ドルであったが、今年第1四半期には8億ドルに急減、その後持ち直したものの5社の中では最も低い水準の投資にとどまっている。

(6) 原油・天然ガス生産量の推移

(6-1) 原油生産量

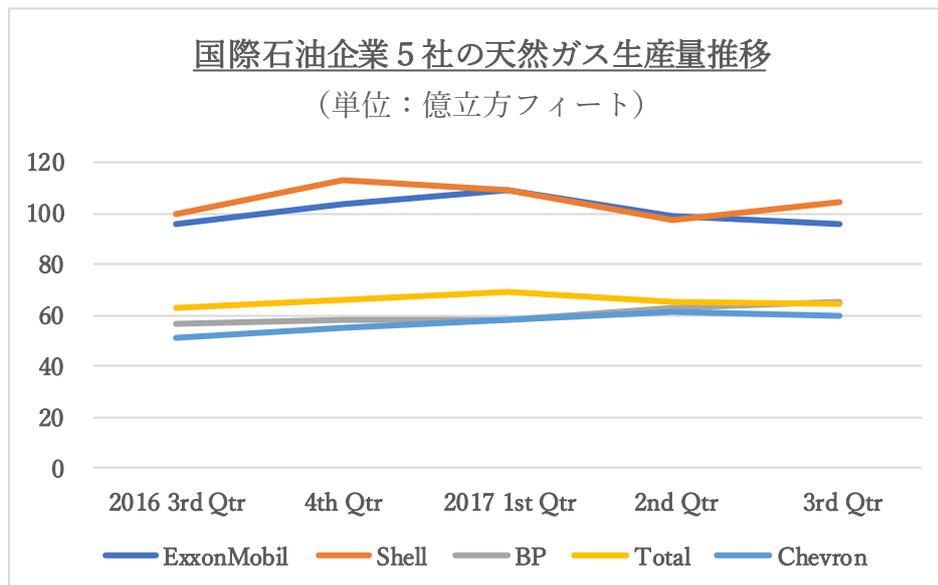


過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見ると ExxonMobil が他社を引き離してトップを維持しており、Shell と Chevron が2番手グループ、BP と Total がほぼ同じ生産量で3番手

グループである。首位の ExxonMobil は5社の中でただ1社200万 B/D 台の生産量であるが2016年第4四半期以降はわずかながら低落傾向にある。これは Shell も同様であり、同社の場合過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移は187万 B/D→195万 B/D→187万 B/D→181万 B/D→185万 B/D であり ExxonMobil のほぼ8割の生産量である。5社の中で生産量が少ないのは BP

と Total であり、両社は共に ExxonMobil の6割前後の水準である。

(6-2)天然ガス生産量



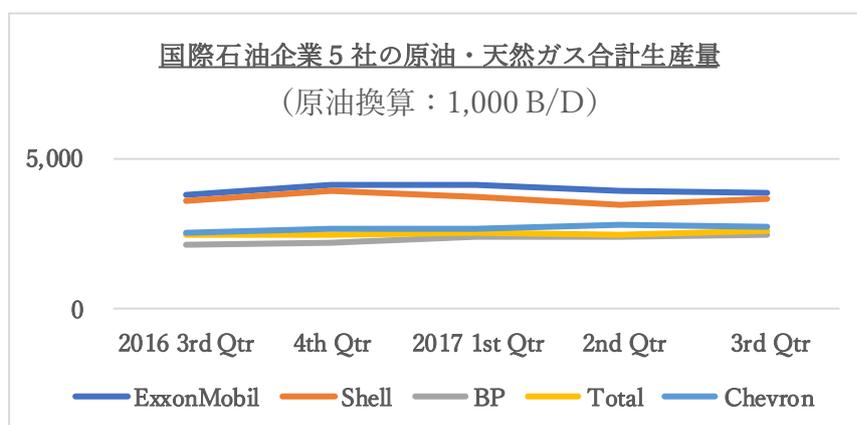
天然ガスの生産量は ExxonMobil と Shell の上位グループと BP、Total、Chevron の下位グループの2極に分かれており、上位2社は日量100億立方フィート前後の生産を続けているのに対して Total、BP 及び Chevron は50～

60億立方フィート台の生産量にとどまっている。

年間の推移を見ると生産量トップであった Shell は昨年第4四半期の113億立方フィートをピークに前期まで2期連続して減少、ExxonMobil にトップの座を奪われたが、今期(2017年第3四半期)は日量100億立方フィートに回復、再び5社のトップに返り咲いている。ExxonMobil は今年第1四半期を境に凋落傾向にある。

BP、Total 及び Chevron の3社の生産量は日量60億立方フィート前後で横並びのままほとんど変化が見られない。天然ガスは世界各国の既生産鉱区の M&A が活発であり、また米国のシェールガス生産は原油価格の変動に敏感に反応する傾向がある。したがって今後5社の生産水準がどのように推移するかは予断を許さない。

(6-3)原油・天然ガス合計生産量



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見ると ExxonMobil は昨年第3四半期の生産量は381万 B/D であった。同社の生産量は昨年第4四半期に400万 B/D を突破、前期(2017年第1四半期)は415万 B/D を記録

した。前期及び今期は400万 B/D を下回る水準であるが、5社の中では常にトップである。ExxonMobil に続くのが Shell であるが、今期は366万 B/D で ExxonMobil との差は20万 B/D 強と大きくはない。

ExxonMobil 及び Shell の生産量は360万 B/D～400万 B/D の水準を維持しており、その他の3社がいずれも200万 B/D 台にとどまっているのに比べ大きな差がある。その他3社間の生産量の格差は少なく、今期の Chevron、Total、BP の生産量はそれぞれ272万 B/D、258万 B/D、246万 B/D である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

2017年7-9月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron	(付)JXTG
売上高(百万ドル)	2017年7-9月	66,165	75,830	60,018	43,044	36,205	42,203
	前年同期	58,677	61,855	47,047	37,412	30,140	N.A.
	増減(%)	12.8%	22.6%	27.6%	15.1%	20.1%	
総合損益(百万ドル) (*)	2017年7-9月	3,970	4,287	1,769	2,724	1,952	1,638
	前年同期	2,650	1,375	1,620	1,954	1,283	N.A.
	増減(%)	49.8%	211.8%	9.2%	39.4%	52.1%	
上流部門損益(百万ドル) (*)	2017年7-9月	1,567	575	1,242	1,439	489	43
	前年同期	620	▲ 385	1,196	877	454	N.A.
	増減(%)	152.7%	-249.4%	3.8%	64.1%	7.7%	
下流部門損益(百万ドル) (*)	2017年7-9月	2,624	2,405	2,175	1,020	1,814	1,020
	前年同期	2,400	1,596	978	917	1,065	N.A.
	増減(%)	9.3%	50.7%	122.4%	11.2%	70.3%	
売上高利益率(%)	2017年7-9月	6.0%	5.7%	2.9%	6.3%	5.4%	3.9%
	前年同期	4.5%	2.2%	3.4%	5.2%	4.3%	N.A.
設備投資(百万ドル)	2017年7-9月	5,987	5,018	4,136	3,373	4,456	N.A.
	前年同期	4,190	5,282	3,379	5,116	5,175	N.A.
	増減(%)	42.9%	-5.0%	22.4%	-34.1%	-13.9%	
原油生産量 (1,000B/D)	2017年7-9月	2,280	1,852	1,341	1,392	1,719	N.A.
	前年同期	2,211	1,870	1,134	1,290	1,661	N.A.
	増減(%)	3.1%	-1.0%	18.3%	7.9%	3.5%	
ガス生産量(100万 cfd)	2017年7-9月	9,585	10,470	6,502	6,427	5,985	N.A.
	前年同期	9,601	10,004	5,695	6,286	5,113	N.A.
	増減(%)	-0.2%	4.7%	14.2%	2.2%	17.1%	
同石油換算 (1,000B/D)	2017年4-6月	1,598	1,805	1,121	1,189	998	62
	前年同期	1,600	1,725	982	1,153	852	N.A.
	増減(%)	-0.1%	4.6%	14.2%	3.1%	17.1%	
原油・ガス合計生産 量 (石油換算 1,000B/D)	2017年7-9月	3,878	3,657	2,462	2,581	2,717	N.A.
	前年同期	3,811	3,595	2,116	2,443	2,513	N.A.
	増減(%)	1.8%	1.7%	16.4%	5.6%	8.1%	